

監修者のことば、「空間の合唱」プログラム、p6、1979
初出 地球19、p34、1979

●監修者———小泉文夫

東京芸術大学教授

空間芸術と時間芸術というように芸術を二つに分ける考え方があるが、建築・造園のように普通は空間芸術と考えられているものが実は四季の移り変わりや二百年後の形などを想定した時間芸術であったり、逆に時間芸術と考えられているものが実は空間芸術であったりする例はたくさんある。

特に合唱は、社会的な基盤に基づくものだから、根源的には空間性をもっているものであるにもかかわらず、時間芸術として一元化しようとする近代の西欧の芸術運動の中では、合唱音楽のもつ空間性の本質を傷つけ、失う面が多かった。

しかし、幸いなことに日本や外国の郷土芸能の中には、未だに空間や人間社会のそのままの反映としての合唱芸術がある。また一方では、新しい時代の要求からケチャのようにバリ島の伝統的空間の変貌を余儀なくする場合でも、それをプラスの契機とすることですぐれた芸能を生んでいる例もある。

芸能山城組の今回の取り組みでも、郷土芸能をこの現代にふさわしいものに創り上げていくことで本来の郷土性を取り戻している。空間芸術としての合唱は、新しい時代の空間に適合させる努力の中でこそ現代および未来社会へ生きていく唯一の可能性をもつものと考ええる。

芸能山城組は、こうした根本問題に挑戦している唯一の合唱団であり、合唱の空間性を表現に取り入れた今回の公演には、大いに期待している。(談)